

## 第 3 期愛知県がん対策推進計画のパブリックコメント結果等について

## 1 意見募集期間

平成 29 年 12 月 15 日（金）から平成 30 年 1 月 14 日（日）まで（31 日間）

## 2 応募状況

## (1) 提出方法

郵送	電子メール	F A X	合計
0	1	3	4

## (2) 性別

男性	女性	不明	合計
1	2	1	4

## (3) 年代別

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	不明	合計
0	1	0	1	1	0	1	4

## (4) 地域別

名古屋	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県外	不明	合計
2	0	0	0	1	0	0	1	4

## (5) 職業別

会社員	公務員	医師	自営業	パート等	主婦	無職	その他	不明	合計
0	0	1	0	0	1	0	1	1	4

## 3 意見数

11 件

## &lt; 判定基準 &gt;

A	内容に関する意見（修正あり）	1
B	内容に関する意見（修正なし）	3
C	内容に関する質問	0
D	取組に対する要望	6
E	その他	1

#### 4 意見の概要と県の考え方

番号	項目	意見の概要	県の考え方	判定
1	がんの早期発見の推進（がん検診の受診率）	<p>これまでの受診率の推移から、各がん検診受診率の現状値と計画の目標値の乖離があまりに大きすぎるように感じる。</p> <p>平成 33 年度までにがん検診の全ての項目で 50%を目指すのであれば、愛知県が各市町村任せにせず、市町村に対するクーポン券の配布や自己負担分の助成により、集団検診だけでなく個別検診でも実施できるよう支援するべきである。</p> <p>その結果、受診率向上による早期発見・早期治療、さらには医療費の抑制につながるのではないか。</p>	<p>がん検診を推進するための補助制度は、現在のところ国が実施主体である市町村に対し直接補助を行うこととなっております。</p> <p>このため、県が市町村に対して補助を行うことは現段階では困難ではありますが、本県としましてはがんで亡くなる方を減らすには、がん検診によりがんを早期発見し、治療につなげることが重要になりますので、市町村だけでなく、広く国や県、関係機関や関係団体、企業等、官民一体となり、社会全体で取組を進めていくことが必要になると考えております。</p> <p>本県においては、国同様、毎年 10 月をがん検診の受診率向上に向けたキャンペーン月間と位置づけ、行政だけでなく、多くの関係団体や企業と連携しながら啓発活動を展開しています。</p> <p>今後も、より多くの県民の方ががん検診を受診するよう、広く連携を図りながら、様々な機会をとらえ、より効果的な取組を行ってまいりますので、ご理解ください。</p>	B
2	がんの早期発見の推進（がん検診の精度管理）	<p>検診を実施する医療機関でも検診実施要項の存在を知らない場合があるため、関係者へのガイドラインの周知を市町村任せにすることなく、定期的に県としても確認する方策を明記すべきである。</p>	<p>がん検診につきましては、国が「がん検診実施のための指針」を定め、それに従い、市町村において実施しております。</p> <p>国の指針等につきましては、広く周知を行うため、本県では市町村だけでなく、愛知県健康管理機関協議会等の関係団体に通知を行うとともに、ホームページにも掲載を行っております。</p> <p>さらに、毎年、市町村や検診機関に対し、がん検診の事業評価のためのチェックリスト調査を実施する等、検診実施状況の把握を行い、確認に努めています。</p>	B
3	在宅療養の推進（若年者の支援）	<p>65 歳未満の若年者ががんに罹患した場合、復帰支援や就労支援も大切であるが、就労するまでの医療費の負担感は大きく、また福祉医療でも救済策が少ないのが現状である。</p> <p>名古屋市では、在宅医療での負担を抑えるために、若年者を対象とした助成制</p>	<p>御意見の中にありましたとおり、名古屋市では若年の末期がん患者の在宅療養を支援するための在宅サービス利用料の助成について検討していると聞いております。</p> <p>国同様、本県においても若年のがん患者に対する、医療や福祉の支援が十分でなく、課題であると認識しておりますので、国の動向をふま</p>	D

番号	項目	意見の概要	県の考え方	判定
		<p>度の創設を検討していると聞いている。 愛知県の制度としても、若年者に対する助成をぜひ創設していただきたい。</p>	<p>え、国への働きかけを検討する等取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>なお、国が策定した第3期がん対策推進基本計画（平成29年10月24日閣議決定）では、新たにAYA世代（思春期世代及び若年成人世代）に対する取組が盛り込まれており、その中で、AYA世代のがん患者は、就労、就学、生殖機能等、年代によるニーズに応じた支援が求められています。</p> <p>今回は助成制度に対する御意見をいただきましたが、まずは、本計画に記載させていただきましたとおり（計画書78、79ページ）、AYA世代のがん患者の状況に応じた支援ができるよう、医療機関の連携強化につながる取組を検討していくとともに、ニーズに応じた情報提供等を行っていくことを考えております。</p>	
4	がん予防の推進（受動喫煙）	<p><b>受動喫煙の害について周知徹底をお願いしたい。</b>歩きたばこや、マナー違反の喫煙者には、条例違反等の対応を望みます。最近歩きたばこの人が目立つ気がします。身近に、健康を脅かされて恐怖を感じている人がいることをもっと知らせてほしい。</p>	<p>本県では、受動喫煙につきまして、世界禁煙デー等における街頭啓発や受動喫煙防止対策実施施設の認定、がん教育による普及啓発等様々な取組を行っております。御意見いただきましたとおり、より多くの方に受動喫煙の害について知ってもらう必要がありますので、引き続き、受動喫煙に対する取組を積極的に行ってまいります。</p> <p>なお、現在、国において受動喫煙対策に係る法案について検討を行っており、その状況をふまえ、本県においても適切な対応を行ってまいります。</p>	D
5	ライフステージに応じたがん対策の推進（AYA世代）	<p><b>AYA世代の乳がん患者として、がん拠点病院で治療したが、その大学病院では生殖機能の温存で採卵ができなかった。告知時、特に生殖機能の温存の説明はなかったが、自分で採卵できる施設を探し、何か所も断り続けられ、やっと受け入れ施設を見つけた。</b>不妊治療の知識もなく、告知後のパニックと、乳がん治療の勉強や、採卵のための勉強とでサポート体制もなく疑問を投げかける場所や相談できる場所はなかった。通院</p>	<p>国が策定した第3期がん対策推進基本計画の中で、がん治療に伴う生殖機能の温存等について、医療従事者が患者に対して治療前に正確な情報提供を行い、必要に応じて生殖医療を専門とする施設に紹介できるための体制づくりが課題であるとしており、本県においてもこの課題をふまえ、取組を進めていく必要があります。</p> <p>これまで、本県では、医療従事者等に対する生殖機能の温存等の知識を高めるため、国より提供のあった生殖機能の温存に関する冊子等</p>	D

番号	項目	意見の概要	県の考え方	判定
		<p>先の大学病院では不妊治療は行っているため、初めに乳腺外科医から同じ病院の産婦人科医にコンタクトをとってもらって少しでも話を聞いてもらったり、相談ができれば、どれだけ救われたことと思う。岐阜県等は、医療者従事者間の連携が取れてスムーズであったと経験者から聞いたので、愛知県でも早急に体制を整えてほしい。</p> <p>どの施設でも、十分に連携をとっていただくように医療従事者の壁を取り払っていただきたい。</p>	<p>を医療機関に情報提供等を行ってきました。</p> <p>今後も、本計画に記載させていただきましたとおり（計画書 78、79 ページ）、AYA世代のがん患者等に対して治療前に正確な情報提供をすることが重要であることから、生殖機能を専門とする医療機関の状況把握に努め、がん患者に対し適切な情報提供を行うとともに、生殖機能を専門とする施設に紹介できるよう、医療機関等の連携を推進してまいります。</p>	
6	<p>その他（インフルエンザワクチン接種）</p>	<p>多くのがん患者にとって抗がん剤（ハーセプチン）開始前、インフルエンザワクチン予防接種はガイドライン上で推奨されていますが、今年度はワクチン不足のため、高齢者用は確保してあるが、成人用のワクチンがなくなり、何件も問い合わせ、やっとワクチン接種ができた。もう少し、柔軟な対応はできないものかと正直感じました。</p> <p>抗がん剤で免疫低下して、その間にインフルエンザにかかった場合のリスクと健康で自己管理可能な高齢者のどちらかが、ワクチンが必要なのか。四角四面な対応では、適切な治療を受ける機会を失いかねません。</p>	<p>国は季節性インフルエンザワクチンの製造予定量や昨シーズンの使用量を勘案すると、ワクチンを効率的に活用することが、例年以上に重要な状況であるとしており、都道府県に対し季節性インフルエンザワクチンについての安定供給を呼び掛ける通知が国から発出されています。</p> <p>このため、本県では、実際に不足が生じた場合、県内の卸売販売業者や医療機関における在庫状況を把握できるよう体制を整備し、ワクチンを抱え込まないようにすることや、ワクチンの円滑な流通について関係者の連携に努めるよう依頼する等、必要な方がワクチン接種ができるように努めております。</p>	E
7	<p>がんになっても安心して暮らせる社会の実現（がんに関する相談支援）</p>	<p>私の通院先には、相談室があり、よく利用させていただいた。しかし、相談員さんは1人であるため、知識の得手、不得手があるため、こちらの意図がわかってももらえないこともしばしばありました。相談員さんの増員をお願いしたい。</p> <p>人間同士相性があると思うし、患者は医師とのコミュニケーションだけで必死なので相談員さんとのやり取りに、配慮するだけのパワーが残っておりません。得意分野ごとに配置されれば、お互いのミスコミュニケーションが減り、円滑な治療に役立つでしょう。</p>	<p>本県には、26 か所あるがん診療連携拠点病院等にだれでも無料で相談できる「がん相談支援センター」が設置され、看護師や医療ソーシャルワーカー等の専門職員による相談が実施されています。</p> <p>「がん相談支援センター」では、がん患者の方が必要とする様々な相談内容や、情報の多様化に適切に対応するため、国立がん研究センターが開催する研修を受講した相談員を配置する等、相談員の質の維持・向上に努めています。</p> <p>本県としましては、がん患者や家族の方が困らないよう、相談の内容によって、専門の窓口</p>	D

番号	項目	意見の概要	県の考え方	判定
			<p>につながるものが重要であると考えておりますので、相談支援機関やがん患者団体を含めた関係機関が連携を図りながら、今後もより一層連携を深めてまいります。</p>	
8	ライフステージに応じたがん対策の推進（働く世代）	<p>がんになって「(治療し)ながらワーカー」も大事な事だと思いますが、私個人としては病気の時くらい、周りに気兼ねせず正々堂々と休ませてほしい、というのが本音です。</p> <p>抗がん剤中も後も、思い通りに身体は動きません。どんな治療なのか、抗がん剤の種類によっても人それぞれです。あまりに、がん患者みんながはつらつと、「がんでもこんなに頑張れる」というメッセージだけが世の中に浸透するのは治療に専念せざるを得ない患者にとっては復職時に社会から「頑張れない人」、「できなかった人」という印象を持たれかねません。なぜか患者同士でも「頑張った」自慢になってしまい、仕事をしなかった者の肩身が狭くなる、という風潮すらあります。世の中に、正しい情報が隅々まで伝わりますように願っています。</p>	<p>がん医療の進歩等により、外来で治療を受けながら働く人が増えていますが、治療を受けながら働くには、まずは本人の意向が重要になります。その意向に従い、主治医や医療従事者、相談窓口の職員等が支援を行うこととなります。</p> <p>しかし、がん患者の方は、それぞれ治療内容や病状、家庭環境等については様々であり、それぞれに置かれている立場は異なります。</p> <p>本県としましては、がん患者の方の御意向を尊重し、病状に合わせた支援を行い、計画の理念であるがんになっても安心して自分らしく暮らせることを目指しています。</p>	D
9	全体目標	<p>計画書の34ページ19行目に「高齢者等が自宅など住み慣れた～」とありますが「高齢者等」でなく「誰もが」がよいと思う。</p>	<p>本計画では、高齢者だけでなく、県内どこに住んでいても、全てのがん患者の方が病状に応じて治療や相談支援等を受けられることを目指しておりますのでご指摘のとおり修正させていただきます。</p>	A
10	がんの早期発見の推進（がん検診）	<p>計画書の48ページ13行目の取組の方向性の記載について、「③～がん検診で必ずしもがんが見つけれられるわけではないこと～」とするより、「③～がん検診で見つけられないがんがあること～」の方がわかりやすいと思います。</p>	<p>本県では、これまで講演会等におきまして、県民の方に定期的ながん検診を受けることの重要性だけでなく、がん検診を受ければ必ずがんが発見されるわけではないことや、がん検診でも見つけられない種別のがんもあること、がんでなくても「要精検」と判定されることがあること等の知識の普及に努めてきました。今後も、県民の方の理解を深めるよう、引き続き積極的に啓発に取り組んでまいります。</p>	B

番号	項目	意見の概要	県の考え方	判定
11	ライフステージに応じたがん対策の推進（がん教育）	<p>中学校の保健体育の授業で、がんについて学びます。大人対象の健康講座も、がんにならないために気をつけることや、新しい治療方法等一方通行の話です。</p> <p>小学校、中学校では、福祉について、「福祉実践教室」があります。車いす体験・手話・点字・要約筆記・視覚障害者のガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症等を学びます。実際の方法や障害者の体験談を聞き、質問するコーナーもあります。</p> <p>芸能人ががんになり、がんを克服したり、がんで亡くなったときは、テレビや書籍になります。私の実父も12年前に胃がんで亡くなりました。父ががんになるまでは、がんは芸能人がかかる病気と聞いたほどです。がんに罹った方の体験談を聞くことはなかったです。</p> <p>できることなら、学校の出前講座や市町村の講座で、当事者の体験談を聞く等の身近になるような内容にしてほしいと思います。</p>	<p>本県では、大学や企業等と連携して、直接、大学生や企業の従業員に対して、がんについて知識を学ぶ講演会等を開催しています。その際、医師だけでなく、がん体験者の方にも御協力いただき、体験談をお話しいただいております。なお、小・中学生にがん体験者の話を聞かせることに関しては慎重な意見もあることから、学校への出前講座につきましては、今後、教育関係者に相談していきたいと考えております。</p> <p>引き続き、より多くの県民の方にはがんは身近な病気であることを伝え、日頃からがん患者への理解やがんへの意識を高めてもらうよう、講演会等においてがん体験者の方の話を聞く機会を設けることで、より効果的ながんに関する普及啓発に努めてまいります。</p>	D